

【4】他の雨安居地伝承との比較

[1] 『モノグラフ』第6号【論文5】「原始仏教聖典資料に記された釈尊の雨安居地と後世の雨安居地伝承」で見たように、パーリと『僧伽羅刹所集経』の雨安居地伝承は釈尊の雨安居地の年次を伝え、『八大霊塔名号経』とプトン『仏教史』の伝承は釈尊の雨安居の回数のみを伝えているが、挙げられる地名や回数から、細部に異同があるもののそれらは系統を同じくする伝承と見ることが可能である。しかし『十二遊経』の雨安居地伝承はそれらの伝承と大きく異なっている。

[1-1] 次に示す表 I は『十二遊経』、*AN-aṭṭhakathā* と *Buddhavaṃsa-aṭṭhakathā*、『僧伽羅刹所集経』の雨安居地伝承の対照表である。

[1-2] 表 I

	十二遊経	AN.注 Bv.注	僧伽羅刹所集経
1	坐樹下為一年	Bārāṇasī Isipatana	波羅奈国
2	鹿野園	Rājagaha Veḷuvana	靈鷲頂山
3	為鬱為迦葉兄弟三人説法	Rājagaha Veḷuvana	靈鷲頂山
4	象頭山	Rājagaha Veḷuvana	靈鷲頂山
5	竹園	Vesālī Mahāvana Kūṭāgārasālā	脾舒離
6	須達与太子祇陀共為仏作精舎	Maṅkulapabbata	摩拘羅山
7	拘耶尼国	Tāvatiṃsabhavana	三十三天
8	柳山中	Bhagga Suṃsumāragira Bhesakaḷāvana	鬼神界
9	穢沢	Kosambī	拘苦毘国
10	摩竭国	Pārileyyaka vanasaṇḍa	枝提山中
11	恐懼樹下	Nālā brāhmaṇagāma	鬼神界
12	父王国・釈氏精廬	Verañjā	摩伽陀閑居処
13		Cāliyaṇapabbata	鬼神界
14		Jetavana	舎衛・祇樹給孤独園
15		Kapilavatthu	迦維羅衛国釈種村中
16		Ālavī	迦維羅衛国

[1-3] 第1年を『十二遊経』は樹下に数え、他の伝承はパーラーナシーとするためにずれ込んでいるが、『十二遊経』の第3年から第5年の3年間をマガダ国としてくれば、他の伝承の第2年から第4年が唯一の一致点であろう。『十二遊経』では第6年にマガダ国から祇園精舎に移るが、他は第5年にはヴェーサーリーが入り、祇園精舎は第14年まで現れない。このように雨安居地の年次はほとんど一致しない。

[2] 次に示す表Ⅱは『十二遊経』、AN-*aṭṭhakathā*と *Buddhavaṃsa-aṭṭhakathā*、『八大霊塔名号経』、プトンの『仏教史』の地名についての対照表である。年次は無視して、地名のみを対照させた。また『十二遊経』は成道後12年間の釈尊の遊行地を示したものであるに対して他の伝承はすべて釈尊の成道後45年間の雨安居地を範囲としている。

[2-1] 表Ⅱ

十二遊経	AN.注 Bv.注	羅刹所集経	八大霊塔	プトン
坐樹下為一年				
鹿野園	Bārāṇasī Isipatana	波羅奈国	鹿野苑	chos bskor gnas
為鬱為迦葉兄弟三人説法 象頭山 竹園 摩竭国	Rājagaha Veḷuvana	靈鷲頂山 摩竭陀閑居処 羅闍城	王舍城	rgyal po'i khab kyi grong
須達与太子祇陀共 為仏作精舎	Jetavana	舎衛国	舎衛	mnyan yod
拘耶尼国				
柳山中				
穢沢	Cāliyapabbata	柘梨山	惹里巖	'bar ba'i phug gi gnas
恐懼樹下	Bhagga Suṃsumāragira Bhesakaḷāvana	鬼神界?	尸輪那? 毘沙林?	byis pa bsod sman gyi nags?
父王国	Kapilavatthu	迦維羅衛国	浄飯王都迦毘城	ser skya'i gnas kyi grong khyer

[2-2] 「為鬱為迦葉兄弟三人説法」、「象頭山」、「竹園」、「摩竭国」はすべてマガダ国であるという視点で他の伝承と対応させた。?を付した地名については【論文5】において根拠を示した。「穢沢」については【3】-【9】に述べたようにあくまでも推測で他との対応が考えられるものである。

[2-3] 「拘耶尼国」と「柳山中」の2つが他と対応していない。「柳山中」は【3】-【8】で見たように『侘真陀羅所問如来三昧経』に基づけば「香山」すなわち「香醉山」のことであるかもしれないが対応しないことには変わりはない。